



登録者数150万人 教育系YouTuber

～葉一さん スペシャルインタビュー～

PROFILE

葉一 はいち (教育系 YouTuber)

Webサイト「19ch.tv(塾チャンネル)」でプリントを無料配布し、YouTubeチャンネル「とある男が授業をしてみた」で解説動画を配信。東京学芸大学へ進学後、営業職、塾講師を経て2012年からYouTubeでの活動をスタート。154万人(2021年7月現在)の登録者を有し、コロナ禍から講演活動やリアルイベントも実施。著作に「自宅学習の強化書(フォレスト出版)」「はいちの楽しくなる数学(文英堂)」等多数。

YouTubeチャンネル「とある男が授業をしてみた」



教育のICT化が進む中、動画授業を推進する新興出版社啓林館は、2019年よりTopYouTuberである葉一さんと意見交換をしてきました。今回は、コロナ禍という思いもよらない状況が1年たった中で、お話を聞きしました。(聞き手:新興出版社啓林館 まなびデザイン部 宮成 亜紗子)

1 コロナ禍でも主役は学校

Q:最近は動画授業だけでなくセミナー講師や各種メディアへの出演といった活動もされています。

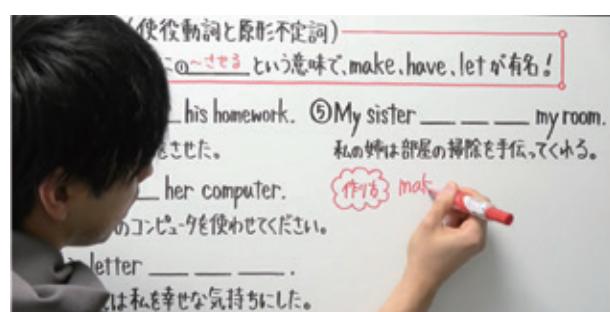
周囲からの見方や心境の変化などはありますか?

葉一:コロナ禍での休校期間があり、風向きがすごく変わって、保護者の方や先生方からのYouTubeでの活動についての理解が以前より得られるようになりました。私は、公教育が教育の幹であるべきで、主役は絶対に学校だと思っています。授業動画は、先生が授業をされる上でより効率的になるのであれば使ってほしいと思っています。

2 動画を見てもうために

Q:10年間塾講師をされていましたが、その経験の中で現在の活動に活きているものがあれば教えてください。

葉一:板書の書き方には塾講師のときからこだわっています(葉一さんの動画は板書を説明する形式)。当時の生徒は偏差値が50に満たない子が多く、長い説明にはすぐに飽きてしまうので、彼らを集中させるためトライアンドエラーの繰り返しでした。動画授業ではスピーディーな展開を心がけ、飽きさせない工夫をしています。また、子どもたちは大人の話は聞きませんが、仲の良い友だちの言うことなら刺さる。友だちが見ている動画なら見てくれます。多くの子どもたちの認知を得て、信頼を得ることがテーマですね。



Q:動画をどのように提示するのがよいでしょうか。

葉一:提示する側が「提示する」と「押しつける」の違いを意識することが大切です。私も子どもが二人いますが、親は無意識のうちに「押しつけ」をしてしまうこともあるので、その点に注意が必要だと思っています。

3 動画を作るのが難しい教科は…

Q:動画を作るのが難しい教科というのありますか。

葉一:難しいというか辛かったのは歴史です。投稿すると歴史マニアの方などからご意見が寄せられるんです。教科書に書いてあることをさらにそぎ落としているので、専門家の皆さんとの深い知識では納得できないこともありますね。撮影も長くて大変で、そんな中モチベーションを保つのは大変でした。そのかわり達成感はあって、苦手な子にとっては、文字で読むより勉強しやすいといった反響も得られました。この動画ですべてを学ぶことはできませんが、動画から派生して自学できるような教材を目指しています。

Q:動画を作りやすい教科は何ですか。

葉一:専門ということもあり、数学ですね。それから理科。理科の教科書は、特に実験については授業を受けることで完成されるようにできているものがあります。教科書の紙面にはなくても、普段先生方が授業で伝えようとしている部分を、動画で補えたのが良かったと思います。

4 動画は反復して見てほしい

Q:動画や「塾チャンネル」について、どんなときに使ってほしい、どういう気持ちで取り組んでほしい、というのありますか?

葉一:全部見なきゃ、と思うと、それはただの作業になってしまいます。自分に必要だから知識を取りにいく、という意識で見てほしいですね。それから、絶対に反復する

こと。動画はつい、わかった気になってしまいます。とくに基礎学習ができていない子は、自分の「できた気になっている」と「自力で解けるようになった」の区別がわかっていないことが多い。自力で解けるようになるために、絶対に反復してほしいと思います。

5 オンライン自習室の意味

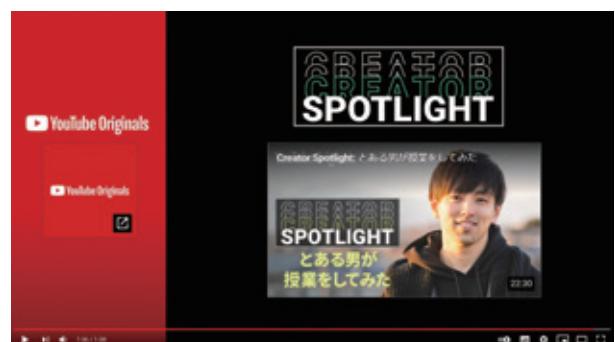
Q:動画だけではなく自習室も開講されていますが、こちらの一番の意図は何でしょうか。

葉一:子どもたちのメンタルケアです。コロナ禍でメンタルがやられている子がすごく増えていると感じています。境遇によっては大人たちのストレスのはけ口にもなっていることもあります。動画の供給も一つのメンタルケアですが、やはり同じ時間を共有して一緒にがんばれた、そして気晴らしができたという経験をワンセットにして提供したいと思っています。

6 動画授業の未来

Q:今後の動画授業の未来について、どのような気持ち、夢をお持ちですか。

葉一:動画授業という選択肢が当たり前になってほしいと思います。YouTubeだけでなく、いろいろな先生の映像授業があって、お金をかけなくても勉強ができる、成り立つということが当たり前になってほしいですね。そのためにも多くの人に知ってほしいと思います。



「#Creator Spotlight #YouTube Originals」より